

『 厳 冬 便 り 』



後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

寒中お見舞い申し上げます。いかがお過ごしですか。令和5年1月12日(木)に、「令和4年度調査研究事業報告会」を倶知安町文化福祉センター公民館中ホールにて開催しました。本報告会は調査研究事業の中間報告という位置づけで、所員16名が一年間を通して研究活動した成果を発表するものです。管内から学校教職員や社会教育主事など67名の参加を得て、学習指導と社会教育に関する調査研究の中間発表を行いました。

来賓として、後志教育局の川端局長、後志町村教育委員会協議会の十河会長、後志教育研修センター組合の村井教育長にお越し頂きました。助言者や後援名義団体代表の方々にもご臨席いただき、所員は少し緊張した面持ちで準備をしておりました。

今回の報告会の一番の成果は、参加者の中で教諭等の先生方が30人(所員を含む)も参加してくれたことでした。これは例年になく、多い数字であります。また、発表後の質疑応答の時間で発言は全て教諭の先生方であったということです。センターの取組が少しずつではありますが、一般の先生方に広まりつつあることを実感しました。

また、今回の報告会の中では、『指導案バンク』と『板書型指導案』の2つが参加者の目にとまったようです。まだまだ、この2つは広く先生方に認知されておりませんので、当センターの研究内容を管内に伝え、広めていく重要性を改めて認識したところです。

私は、昨年度に引き続き、社会教育に関する調査研究の報告が非常に勉強になりました。田中主査が学校教職員の参加が多いことを踏まえて、「学校教育と社会教育の連携」について具体的な資料を準備され、時間をかけて助言と説明をしていただきました。アンケートを見ると、社会教育について改めて意識して、その重要性を再認識した先生方が沢山いたことがとても嬉しいことでした。

参加者の声を紹介しますと、「新学期、授業をするのが楽しみになるお話を聞かせていただきました」「板書型指導案やミニ研修はもう少し学んで自校の校内研修で活かしていきたいと思います」「次年度も自分を含め、本校の先生方にも積極的に研修講座にさせて頂き、スキルアップをしていきたいと感じました」「小樽の先生方にセンターの事業をどんどん伝えていきたいです」などと感想が出されていました。

当センターの調査研究の内容を小樽・後志の学校教職員と社会教育担当者が「そうなのか」と理解し、「この位なら自分でもできる」という気持ちになってくれることを願います。その後、実際に各学校や各地域で使ってみて、その成果はどうであったのか検証され、最終的には、学校の子供たちへ、また地域の人たちに還元されることが一番大切なことでもあります。そこで初めて当センターの調査研究の価値が生まれることとなります。

結びになりますが、新年度に向けた研修講座の準備が既に始まっています。学校の仕事で大変お忙しい中、講師を快く引き受けてくださいました先生方に本当に感謝申し上げます。何といたしましても研修講座の成功の鍵を握るのは、講師陣の講座に対する意欲と姿勢です。そのような意味から、新年度も大成功の予感がしております。

1月31日と2月1日の両日に、その第一歩となります講師団会議を集合形式で開催します。講師が互いに顔をつき合わせて協議し、受講者が是非参加してみたいという研修内容を策定してもらいたいと考えます。

(R5.1.30)